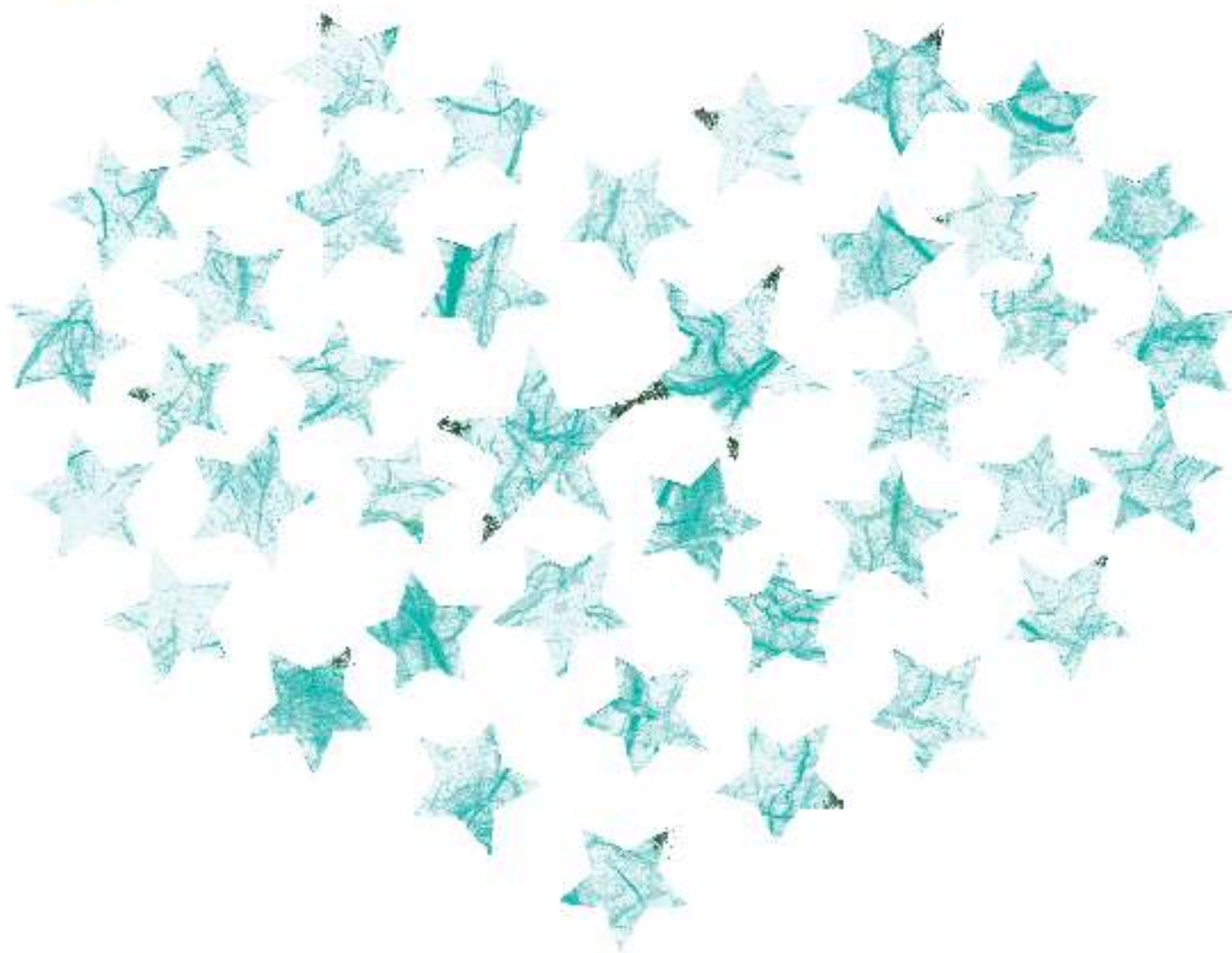


JOURNAL



Contents

- 事業紹介…女性に対する暴力をなくすキャンペーン2008
- 特集…応援します!働く女性たち
- 誌上講座レポート…ライフステージごとの男の生き方
- 相談室だより…新聞記事に見る「改正国籍法」
- 男女平等政策室からのお知らせ…「仕事と生活の調和」について考えてみませんか
- 登録団体紹介…パソコン要約筆記の会「PCくるめ」
- 図書情報ステーションコーナー…新着図書案内「働く女性」

<http://www.city.kurume.fukuoka.jp>

表紙イラスト:「ハート」シリーズ 江頭ゆみ子さん(センター登録団体「クラブ絵O」所属)



くるめ発

登録団体紹介

パソコン要約筆記の会「PCくるめ」

リアルタイムで音声情報を人をつなぐ文字に

私たち、パソコン要約筆記の会「PCくるめ」は、平成15年に県主催「パソコン要約筆記養成講座」へ参加した受講生の有志によって、同年12月にスタートしました。

現在、会員数は28名(内男性3名)で、働いている女性を中心として、聴覚障害を持った方に対して情報保障を行う社会貢献活動を目的に、パソコン要約筆記や週1回の練習会をしています。パソコン要約筆記とは、講演会などの話し言葉を文章にして同時にスクリーンに映し出していく技術です。これは、会場の一角で2人1組で話し言葉をパソコンに打ち込んで完成文を作っていきますが、私たちがこの仕事に魅かれたのは、とても難しいけれど素晴らしい仕事だと感じたからです。活動の大半は、講演会やシンポジウムで、その数は年間100件を超え、速くは福岡市まで出かけています。また、毎年男女共同参画社会づくり「くるめフォーラム」に参加して、記念講演で要約をしています。



活動をしていて、今まで外出できなかった障害を持つ方が、講演会などに参加する機会が増え、社会参加できることが私たちの喜びです。

これから高齢社会を迎えるにあたり、中途失聴者や聴覚者の増加が予想され、講演会などでは手話通訳と同様に、要約筆記を置かれることを望んでいます。また、障害を持つ方々との交流や親睦を深め、パソコン要約筆記について正しい理解を広めていきたいと思っています。私たちと一緒に活動して頂ける方を随時募集しています。気軽に練習会に参加しませんか。

図書情報ステーション

新着図書案内

テーマ 働く女性

再就職・働きながらの子育て・起業・働く女性の夫の本音など、様々な視点から選んでみました



ママも今日から働くワ!
主婦の再就職講座
上田 晶美
再就職への詳しい道筋と再就職した人のストーリー

男たちのワーク・ライフ・バランス
ヒューマンリソース研究所
夫の本音が分かる本



こうして手にする仕事と生活の調和
全国労働基準関係団体連合会
ワーク・ライフ・バランスを実現するために企業の取り組み事例を紹介

私は両立!働くママの仕事と育児
たまごクラブ・ひよこクラブ
子育ての喜びと様々な場面でのトラブルへの対応



キャリア・マザーズ
起業ママ編
プレインワークス
20名の企業家ママを紹介



- 徒歩/西鉄久留米駅から約10分(約700m)
- バス/西鉄久留米駅から約5分
JR久留米駅から約20分
「新橋駅前」下車、徒歩3分
- 駐車場(有料)はございますが、おいでの際はなるべく公共交通機関をご利用ください。

この広報紙は環境に配慮し、再生紙を使用しています。

働く女性のパワーアップセミナー

話して聞いて 自信をつける 女性のイマドキ仕事術

ずっと仕事を続けていたい女性たちが各地から集まってきて、自分の経験した仕事について発表したり、3年後の自分を考えてみたりしながらのセミナー。「自分と仕事」のことも白くなく考え、口にして充実の時間となりました。4回目が行われる頃には、みな仲よしくなって、昔からの友だちのよう…。セミナー終了後も、グループとして勉強会を続けています。

プログラム
①面白いところとイヤなところ
②私の好きな仕事・得意なこと
③仕事を続けるための自分磨き
④仕事を広げるキャリアプラン

ゲスト講師 / 講師
専任講師 / 久保子・藤田サキ子
(キャリア・コンサルタント)



○参加者の声

- こんなセミナーの方と話す事がなかったので、とても新鮮だった。
- 自分の過去、現在、未来を見つめ直す、いい機会になった。
- 同じ課題の大切さを分かって下さる方がいて、うれしかった。
- みなさん一生懸命真剣に仕事をされていると感じた。尊敬します。
- コミュニケーションができて、今まで気づいていなかったことに気づいて、自分を改めて行こうと思った。

実施：8月(全4回)

共催：福岡県経済労働政策研究所



女性の人生にとって、時々必ず必要になってくる仕事。

今年で、働く女性たち向けに開催した各種のセミナーを紹介し、日々の自分の仕事に満足感の多い人や、新しい仕事を求めて進んでいる人、こんなセミナーに参加して、新しい仲間と知り合い、自分と仕事の関係をもっと円滑にできるのが目的です。また、パソコン技術(スキル)習得のセミナーも毎年実施しています。目的にあったものを利用して、元気をつけ、一歩前に進みましょう。

転職のためのパソコン技術講習会

日商PC3級(データ活用)検定合格を目指す技術講習コース

仕事への真摯な姿勢を求めた技術講習会で、応募者の中から受検決定したのは、20代から40代までの18名。「エクセルの技術を身につけてぜひ就職を!」と、強い思いをもった女性おちばかり。講習問題を乗り切り結果に両向きと熱心に取り組む、7時間17日の長期講習はあっという間に過ぎました。終了後は、全員検定を受けました。その合格に向けて、それぞれ自主学習に励みました。がんばれ!がんばれ!持っています、いい結果…。



実施：11・12月(全17回)

○参加者の声

- 長時間の講習会だったので、練習時間が多く取れてよかった。
- 丁寧に分かり易かった。
- 子どもと一緒に学習で覚えることができたので、安心して取り組むことができた。
- 短期集中で勉強できて良かった。

職場でのアサーション・入門セミナー

さわやかな自己主張・自分も相手も大切にしたいコミュニケーションのために



講師 本多美子さん
フェスティバル・カウンセラー

実施：10月29日・11月6日

○参加者の声

- グループの方と話し合いながらワークを行うことができたのがよかった。いろいろな考え方があったのは、とても参考になった。
- 仕事をする上では人間関係を上手に作るのが一番大切だと思う。今回のセミナーで「I'm OK」「You're OK」の自己認識を学び、とても有意義だった。
- 自分はこうでなければならぬという思いが強かったが、気づきが深くなった。人との関係性も変えて行きたいと思う。

セクシュアル・ハラスメント防止セミナー

セクハラ防止の鍵はコミュニケーション

講師：福岡学院大学文学部国際専攻コミュニケーション学部長 今野 昌

企業の経営者、セクハラ相談窓口の担当者、人事労務担当者等を対象に、セクハラは重大な問題という認識のもと、セクハラが起るににくい職場環境づくりのためのコミュニケーション術について学びました。



実施：12月8日

共催：久留米市雇用労働協会 福岡県労働局労働相談所

女性のための起業支援セミナー

チャレンジしよう 自分のための仕事づくり

関心はあるけど入っていくにはちょっと敷居が高いと思われがちの起業。自分の仕事がいちいち思っている女性なら誰でも安心して参加できる、起業についての準備セミナー。起業ってなに?なぜ起業?起業するのは、思わぬところでどこが重なるかを基本から学びました。起業体験者の生き生きとしたお話を引き込まれて、みんな「自分も夢に挑戦しよう!」との気分を高めたセミナーでした。

○参加者の声

- いろいろな起業パターンを分析してもらった中で、お話を聞ける環境は貴重だった。自分がどこに集まるかということも具体的に知ることができた。
- IT関係、パソコン、ネット時代の流れが分かり、用語にも慣れついていけたのがよかった。
- 自分自身にとってこれというものがなかったので、得意な仕事について書くことは苦労したが、改めて自分を発見できた点ではよかった。
- まだ手探りの状態なので、何かもっと自分のイメージを持ち、具現化していきたいと思う。
- 主催から起業したという体験者の行方。いい意味で刺激を受けました。

講師及び協賛者

- ソーシャル・プランニング・アンド・リサーチ代表 福岡県アジア都市研究所 研究主任 山下 美子
- YM-ネット代表、福岡県SOHO事業部専門協会代表理事 田中 由紀
- 株式会社化粧品代販所(オリジナル化粧品企画・販売) 柳 美子
- Office TANAKA代表(動画プロデューサー) 田中 美智子



実施：7・8月(全4回)

共催：久留米商工会議所 福岡県区中小企業団体連合会 久留米市雇用労働協会 福岡県労働局労働相談所

転職準備セミナー

～自分の「働く」を考える～

技術講習会の一環として、求職活動支援のセミナーを開催。長いブランクのことなど不安を乗り越えて就職を成功させるために、最新の雇用状況、働く上での情報や知識、面接を受ける時のポイントなど、一歩踏み出す自信につながるように、ぎっしりの内容となりました。特に、模擬面接では、例えはいい場面設定に緊張しながらも、自分の言葉を選んで話そうとする、参加者の真摯な表情が会場に広がっているのが印象的でした。



○参加者の声

- 模擬面接では、自分では言っていないことが、準備を聞いてもらって、大変参考になった。
- 求人情報収集の方法や面接会や就職活動の記入方法が分かって、とても参考になった。

実施：11月18日

東筑後労働局労働相談所からの出張セミナーとして開催

ライフステージごとの男の生き方

誌上講座レポート



センター恒例の「男性学セミナー」、今回は「ライフステージごとの男の生き方」と題して、それぞれの男性が抱えている課題や抱えている課題について、「熟年期」「子育て期」「青年期」に大別して、それぞれのライフステージにある男性の生き方を男女共同参画の視点からひも解いていく講座を企画しました。その要旨をセンターで要約し、レポートします。

第1部：基調講演

「ライフステージごとの男の生き方」

講師：多賀 太さん（関西大学文学部 准教授）



「男の生き方」というちょっと面白いタイトルだが、「男性には正解となるような生き方がある」というものではない。熟年期、子育て期、青年期、それぞれのライフステージでどんなことを男性が求めているのか、悩みがあるとしたらどうなのか、またどのように課題を解決し、楽しくいきいきと暮らしていくことができるかについて、具体的なお話からヒントを得ようというもの。男性がそれぞれのライフステージごとの抱える課題や直面している問題は異なるので、3人の皆さんの報告の前に、概論的に話しておきたい。

(1) 熟年期

「熟年離婚」という言葉や、妻にまわりつく熟年男性を「濡れ落ち葉」とと揶揄するのを見られることがあると思う。熟年期の男性の課題は「第二の人生」をいかにいきいきと過ごすかということ。そのためには仕事中心、職場中心で生活してきた「第一の人生」から仕事や働きを失い「家庭」や「地域」を中心とした「第二の人生」にいかにかうまく移行できるかがポイント。働きがたいというものが、現役時代から、働きが取り「タダの人」に。そこには大きなギャップがあって、なかなか家庭や地域になじめないこともあると思う。

第二の人生にうまく移行するためのポイント

- ①早くから仕事に代わる生きがいを見つけておくこと。
- ②日常生活面で自立をしておくこと。つまり自分の身の回りのことは自分でできるようになっておくこと。
- ③働きや利害関係にあまり関わらない友人を多く持つこと。

(2) 子育て期

最近の若い父親は育児に前向きな態度を持っているが、実際として、日本の父親の子育て時間は外国と比較して少ない。一方で育児したいといながらも、なぜあまり関わっていないのか？一番の理由は、日本の男性の仕事が忙しすぎる。今の父親の最大の課題は「仕事と育児の両立」。父親の育児参加に対する社会からの期待は増えたが、その分男性の仕事に対する責任が軽くなっているわけではない。また、家庭の状況として父親が稼がなければならないという事情もあると思う。父親の育児参加を促進したいなら、まずは労働時間がもっと少なくなることが重要だと思いが、経済の状況や会社の事情、国の政策などいろいろな事情が絡むので、そう簡単にはできない。そうしたなかで父親は、出来る範囲で家事・育児への関わりをしっかりと努力することが重要。時間がなくても出来ることはあるはず。

男性が育児・家事に関わるポイント

- ①時間…どれだけ時間家事・育児に参加するか。
- ②知識・技術…どれだけ家事・育児に必要なことを知っているか、または実際にできるか。
- ③関心・責任感…どれだけ家事・育児に関心を持っているか、またはすべてを任せではなく、自分も責任の一部を担っていると思っているか。

(3) 青年期

今の青年期の課題は、理想となる男性のモデルがぼんやりと分かっていないこと。以前は、良い悪いは別にして「定職に就き、一家の大黒柱となって家族を養い、家事は妻任せ、どんどん昇進の階段を上っていく」というような理想的な男性のモデルがあった。しかし、今は必ずしも同じ会社で働き続けることが理想と思われてはいないし、雇用が不安定になって、就職できないとか、大企業に就職してもいつ倒産するか分からないという不安もある。結婚についても、昔は結婚することが当たり前という雰囲気だったが、今の若い人たちにとっては、結婚するかどうかも選択肢の一つになっている。結婚したくてもできないこともあるし、結婚しないという人生もある。さらに結婚しても、子どもを持つかどうかも選択肢の一つになっている。女性の男性に対する期待も多様になってきた。今の青年期の男性は、一人ひとりが自分なりのモデルを見つけて、そこに向かって出来ることから頑張っていくとよいと思う。

第2部：事例報告

コーディネーター：多賀 太さん（関西大学文学部 准教授）

新現役の会・久留米 代表世話人 江上 豊一さん



定年後携ってきた故郷久留米で、1年半ほどかけて「持ち前の姿勢」ではなく自ら行動を起こし様々な所へ出かけ多くの人と出会った。あがで昔の会社での働きがすっかり引きずらないようになった。代表世話人をして

「新現役の会・久留米」では、退職した人や子育てを終えた人たちの夢を実現するための情報交換や仲間探し、世代間交流の場を提供している。熟年期の夫婦の関係は、共通の話題を持つことが大事だと思つ。夫婦で互いの好きな映画を観に行ったり、宮崎、横浜、米原オレゴン州にいる。合わせて8人の集まりに行くと、私たちが夫婦の共通の楽しみだ。家事は、料理を練習してみたが、どうしてもうまく出来なかったので片付けや洗濯機をやっている。

筑後市子育て支援拠点施設勤務 梅崎 浩平さん



営業、販売、建設業、介護、幼稚園の送迎バス運転など様々な職業を経験し、25歳で短大に進学、幼児教育を学ぶ。在学中に筑後市で空き店舗対策として託児ボランティア施設を立ち上げた。現在は子育て支援拠点施設に

勤務する傍ら、ボランティアやNPOの理事をし、その他の時間は農業に動いている。お金は必要な分だけ働いて必要な収入を得られたらと考えているが、生き方として介護や幼児教育を通じて福祉に関わることが基本にある。子どもから見ると「面白い大人」という意味で「ひらひら親父」になりたいと常々思っている。その面では、私の父は近所の子どもたちからも慕われ、まだまだかなわないと思う。

久留米大学大学院 山口 孝吉さん



大学院ではジェンダー学を学んでいる。まず同年代の男性の結婚観や家事との関連について、結婚は、まだ考えられないという人が多いと思う。家事には「興味がない」または「自分ではできない」と漠然と書いている男性が多いと思う。まだ男は仕事、女は家事・育児」という性別役割分担意識はまだまだ残っていると

思う。かといって「男女が平等に家事をするべきだ」とは思っていない。結婚して妻が妊娠・出産する時期になると、意識とは関係なく自動的に自分は仕事だけになって、女性は家事・育児をするようになると思っているのではないかと強い危機感を持っている。「男性が積極的に家事をするべきだ」と考えることが重要だと思つ。

相談室だより

今回の新聞記事に見る女性に関する問題は、12月5日に成立した「改正国籍法」を取り上げます。

資格が得やすくなるため、日本で暮らしたい女性が、実父ではない日本人男性に認知を依頼する場合（但し、この場合でも子どもは日本人の子ともという事実が存在）、あるいは人身売買の手段に使われる危険性が懸念されており、どう取り締まるかは今後の課題です。

外国人の女性が婚姻していない場合、あるいは、出生前に認知されていない限り、その間に生まれた子どもは、日本人としての国籍を取得できません。子どもは、外国籍のまま生活することになり、不自由を強いられ、無用の手続きをしなければなりません。今回の法改正は、日本人の男性とフィリピン人の女性の間に生まれた子どもにも、両親が婚姻していないことを理由に国籍を与えない法律は不合理な差別で違憲との最高裁判決を受けて実現したものです。

法改正により、600〜700人の子どもが国籍取得の対象となると報じられています。

課題は不正防止策

一方、この法改正により、国籍売買のブローカーが介在した「偽装認知」も心配されています。確かに、子どもが日本国籍を取得したら、母親である外国人女性は在留

資格が得やすくなるため、日本で暮らしたい女性が、実父ではない日本人男性に認知を依頼する場合（但し、この場合でも子どもは日本人の子ともという事実が存在）、あるいは人身売買の手段に使われる危険性が懸念されており、どう取り締まるかは今後の課題です。法律は、この危険性を排除するために、偽装認知したとわかれれば、懲役1年以下か20万円以下の罰金を科すようになっており、親子関係を立証するために、子どもと写った写真を求めるなど、日本人が両親の場合の認知手続きにはない証拠提出を求めています。

多文化共生に向けて

法改正の結果がどのようなようになっていくかは時間の経過を待たなければなりません。しかし、少なくとも、日本人としての国籍取得を逃げるはずの子どもが何の理由・根拠もなく選択できなかった事実を解消させます。そのことを素直に喜び、見守っていきたいと思います。

男女平等政策室からのお知らせ

「仕事と生活の調和」について考えてみませんか

働き方について人々のニーズは、今、多様化しています。しかし現実には、男性にあっては仕事優先になり、女性にあっては家庭責任が重く、特に育児期において働きたくとも働けない人が多い状況です。こうした問題を解消し、あらゆる人々が人生の各分野において、「仕事の充実」と「仕事以外の生活の充実」の好循環を生む社会の実現を目指す、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）が必要となっています。

ワーク・ライフバランスの実現に向けて

平成19年12月18日に「官民トップ会議」により「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章」及び「仕事と生活のための行動指針」が策定されました。これらの取組の推進により、男女ともに働きやすい職場環境や男性の家庭生活への参画などが実現し、それらが男女共同参画社会の実現につながることを期待されています。

久留米市の取組

久留米市では、男女がともに職業生活と家庭生活・地域生活を両立でき、安心して働き続けられる環境を整えるよう、企業に向けて働きかけを行っています。また平成20年11月には仕事と子育ての両立を考える「くるめ・こども・子育てフォーラム」が開催され、基調講演やパネルディスカッションが行われました。

「カエル! ジャパン」

内閣府では、平成20年度を「仕事と生活の調和元年」と位置づけ、「憲章」と「行動指針」を多くの方に理解していただき、社会全体での取組を推進するため、「カエル（変える）! ジャパン」というキーワードの下、集中キャンペーンを実施しています。

あなたも「仕事と生活の調和」について考えてみませんか?

ひとつ「働き方」を変えてみよう!

カエル! ジャパン

Change! JPN

